

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【タイトル】

契成星園

【作者名】

風切東

【あらすじ】

普通に生活したいのに、何でこんなことに・・・。

親友(?)は無茶振りしてくるし、

黒服と白衣は無茶振りしてくるし、

友人(女)は無茶振りしてくるし。

もつとどうにかしてくれ、まじで。

処女作です。誤字脱字あったら指摘お願いします。

第一話

「さて・・・と、帰るか。」

帰り支度を済ませ教室から出る。

今日も疲れたとつぶやきながら伸びをする。

こんな日常を気に入っている俺は「代倉 麻威」(よしくら まい)。
残念ながら女の子みたいで自分の名前が嫌いだ。

「」

携帯が鳴った。俺は華麗にスルーする。こんな時間にかけてくる奴はアイツしかない。

「」

鳴り続けている。ああ、もう。うるさいな。

「ピッ。プツッ。」パタン

ちなみに今のは通話した瞬間に通話を切った音だ。

「」

またか。仕方がない、出てやるか。

「・・・もしもし。」

「いきなり電話切るんじゃないよ。」

「・・・用件を聞こう。」

「今すぐ俺ん家に来い。」

「やだ。」

「お前の意見聞いてない。」

「俺はやらなきゃいけないことがあるの!!」

「ほーう。じゃあ言ってみる。」

「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・えーと」

「ないんだな。じゃあ早く来い。」

「とにかく嫌だ。」

「これ以上わめくと力づくで持ってこさせる。」

「・・・・・・・・・・はあ。行けばいいんだろ行けば。」

「話が早くて助かる。」

「じゃあまた後で。」

「10分で来い。」

「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

アイツの家の周辺地図を思い浮かべる。「ここからだ、えーと。」

「お前ん家まで何キロ有ると思ってる?」

「約30キロぐらい?」

「どうやって行けと!?!」

「・・・・・・・・来れなかったらお前の家が大変なことになる。」

「・・・・・・・・頑張ってみるよ。」

15分後

「やっと着いた・・・・・・・・。」

学校から30キロ全力ダッシュはさすがに死ぬかと思った。

「はあ・・・・・・・・はあ・・・・・・・・。」

突然後頭部に衝撃が走った。

「ぬがあああああああ!？」

「おせーよ、ばーか。」

「こ…の、くそ野郎が…!」

痛みを堪え反撃に出る。が、

「おせーよ、ばーかw」

お前にだけは言われたくない。

「5分もオーバーしてんじゃねーよカス。」

「無理だろあんなの！お前もやってみろよ!!!」

「やなこった」

紹介が遅れたがこいつは「白滝 慧也」(しらたき としや)

外見がめっちゃくちゃ良く、さらに学校では猫を被っているため周りの印象がものすごく良い。しかし、他の場所では友人には上のようないじめキャラになる。くそむかつくクラスメイト兼悪友である。

ちなみに俺は特に特徴がないが一応クラスの突っ込み&いじられキャラである。

学校に入ったら即委員長をこいつに押しつけられ、こいつは副委員長となつている。

しかし、こいつは仕事を手早く終わらせてさっさと帰ってしまいます。そしてついさっきの出来事が始まるのだ。……はあ。

「……………」

「……………」

「さて。用件を聞いっつ。」

「うむ。それはだな……………」

「何で俺はこんな事を・・・。」

なぜか俺は慧也のお使いをしている。

「うたく。自分でやれば良いのによ。」

そつつぶやきながら目的地に向かう。

「あれ？麻威ちゃんじゃん。何してんの？」

と声をかけられた。

振り返って誰か確認する。

そこにいたのは「深夜月 蓮輝」(みなづき はすき)クラスメイト
&友人だ。

学校の良心ともいえる。どこかの慧也と違い、誰とでも態度を変えず、にこやかに笑う活発な女子だ。外見もかなり良いので彼氏がいないのが不思議である。ちなみに(自称)Cカップらしい。

「ちゃん付けはやめてくれ。見て分からないか？」

「うん。」

「だろうな。」

「何してるの？」

「慧也に強引にお使いにかり出されたんだよ。」

「・・・パシリ？」

「う。はっきり言っちなよ。せつかく気にしないように頑張ってたんだから。」

「「ごめんごめん。で、また使われてたんだ。好きだねえ。そういうの。」

「好きな訳ねえだろ!!!？」

「・・・。。。」

「す・・・すまん。」

「・・・まあ、頑張つて。」
「助けてくれ。マジで。」
「運命と思つてあきらめなよ。」
「こんな運命有つてたまるか！」
「じゃあまた明日ね。」
「ああ、じゃあな。」
よし、さっさと買つて渡して帰るか。

「確かに受け取つた。」
「疲れたから俺は帰るぜ。」
「お疲れw」
さあて、帰つたら寝転がるか。

ん？なんだ？
「貴方は代倉麻威さんですね？」
「はい。その通りですが？」
「ターゲットを見つけた。これから作戦を実行する。」
「ちょっと待て!!なんだその会話は!!!」

なんだ？視界が暗く・・・。。。

.....